

Title	政治とメタファー
Author(s)	Amatanon, Meena
Citation	待兼山論叢. 日本学篇. 2005, 39, p. 19-36
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/10264
rights	本文データはCiNiiから複製したものである
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

政治とメタファー

アマタノン ミーナ

1. はじめに

タイでは、90年前半に入ってマスコミへの報道規制が緩和されたことに伴い、新聞の言葉づかいが変化してきており、とくに、政治の権力者や政治家の行為をからかった言い回し（メタファー表現を含む）をすることが慣習的になってきた（Jittaviriyapong 1997）。また、Kullavanijaya (2004) は、タイの新聞各紙の本文の長さには異なりがあるものの、その主な内容はほとんど同じであり、違いは見出しとリード（書き出し）の表現の仕方だけであると指摘している。そして、そこには、記者がその政治事象に対してどのようにみているのかが反映しているのだと説明している。すなわち、記者が事態を批判的にとらえていれば、辛らつな表現が用いられ、そうでなければ、穏やかな表現が用いられるのである。このように、記者は見出しやリードで読者に事態の捉え方を明確に提示するのだが、その際にメタファー表現が多用されるわけである。

タイの政治記事に現れるメタファー表現は多種多様な分野にわたるが、中でも「競技」と「戦争」という2つのメタファーに依拠した表現が多い¹⁾。本稿では、この2つのメタファー表現がタイの政治記事でどのように用いられているかを概観し、その特徴について考える。

2. メタファーと認識

伝統的なレトリック研究では、メタファー（隠喩）は、メトニミー（換喩）やシネクドキー（提喩）などの他の比喩とともに効果的な表現のための技巧であると考えられた。つまり、メタファーは、特別な表現をする際の言葉づかいの問題として扱われていたのである。ところが、Lakoff and Johnson (1980) は、アメリカ英語の話者の日常言語を分析することによって、新たなメタファー論を提唱した。Lakoff らは、メタファーはわれわれの日々の言語活動において不可欠であり、また人間の思考や行動にも浸透しているということを示している。そして、メタファーを、「ある抽象的な概念を、より具体的な概念を通して理解する」という認知プロセスとしてとらえる。つまり、メタファーは単なる修辭的文飾の問題だけではなく、むしろ人間がなんらかの概念を理解する際の認知的な仕組みに深く根ざしているのである。Lakoff らは、この意味でのメタファーを「概念メタファー」(Conceptual Metaphor) と呼んでいる。

概念メタファーは、ある概念からほかの概念への写像としてとらえられるものである。概念メタファーにより2つの概念の間に写像が成立するとどのようなことなのかについて、Lakoff らは次のような例をあげる。アメリカ英語の話者の社会には、ARGUMENT IS WAR (議論は戦争) というメタファーが存在すると考えられる。それは、議論のことを語るに際して、attack a position (陣地を攻撃する)、indefensible (防ぎきれない)、strategy (戦略)、win (勝つ) などのような戦争で用いられる表現が多くみられることにあらわれている。また、ただ単に戦争用語が用いられるばかりではなく、Lakoff らの主張では、議論をする際の彼らの行動の全体が戦争のメタファーで概念規定されるという。すなわち「議論には現実に勝ち負けがあり、議論の相手は敵とみなされ、相手の議論の立脚点 (=陣地)

を攻撃し、自分のそれを守る。優勢になったり、劣勢になったりする。戦略をたて、実行に移す。自分の議論の立脚点 (= 陣地) が守りきれないとわかれば、それを放棄して新たな戦線をしく。議論の中でわれわれが行うことの多くは、部分的にはあるが戦争という概念によって構造を与えられているのである」という説明である。議論が戦争のように考えられる社会では、議論の概念が戦争の概念を通して理解されるのである。

概念メタファーに基づいて、欧米や日本では、言語表現やその中に反映した国民性や国の価値観などを多角的な観点から分析した研究が行われている (Lakoff 1991、Semino and Masci 1996、山田 1996、松井 1998、鄭 2001 など)。これらを参考に、ここでは、タイの政治記事で用いられる「競技」と「戦争」の表現を分析し、それらのメタファーにみられるタイ人の国民性や価値観について考えたい。

3. タイの新聞の言語表現の形式について

日本では、新聞記事は通常、典型的な書きことばだといわれているが、タイはそうでなく、フォーマルな言葉から口語的な言葉までを混ぜ込んでいるのが一般的である (Khanittanan 1997、Nantachantoon 2000)。新聞記事は通常、見出し、リード、本文という3つの部分で構成されており、それぞれの部分は異なる機能を持っている。したがって、言語表現の形式にもそれらに応じた特徴があると考えられるのである。

これに関して、Kullavanijaya (2004) は、タイの新聞記事における言語表現の形式のバリエーションについて分析している。それによると、言語表現の形式は記事の構成部分によってそれぞれ異なるという。例えば、ある人が何か発言したことを引用する際、「言う」を表す動詞は、タイの新聞では以下の【表1】のようにいくつかの異なる表現形式が用いられているという。

【表1】 タイの政治記事における「言う」の表現形式のバラエティー

	パターン1	パターン2	パターン3
phûut (言う)	phûut thǔŋ (~について言う)		
	klàaw thǔŋ (~について語る)	khui (少し自慢げに言う)	
	hâi khàaw wâ (~というニュースを伝える)	ʔòo (かなり自慢げに言う)	cùak (刺すように批判する)
	hâi sǎmphâat wâ (~とインタビューに応じる)	fúŋ (非常に自慢げに言う)	ʔàt (激しく庄するように批判する)
	hâi khwaamkhithēen wâ (~という意見を示す)	khui fúŋ (ほらを吹く)	

(Kullavanijaya 2004, 翻訳は筆者)

上記のパターン1は通常、あらたまった書き方であり、なおかつ感情的な意味(書き手の主観)を含まないものである。一方、パターン2とパターン3は書き手の発言者(情報源)に対する評価を暗示するような印象を与えられる。例えば、“khui”を使うと、発言者が「少し自慢げに言う」、 “ʔòo”は「かなり自慢げに言う」、 “fúŋ”は「非常に自慢げに言う」、とそれぞれ感情的な意味を付与される。さらに、パターン3の“cùak”と “ʔàt”は両方とも、「言う」を意味する砕けた言い方であり、また「非常に激しく言っている」というニュアンスが強い。この2つの語が使われる場合、発言者がある人、またはある事柄についてただ話すだけでなく、批判的な言い方をしていたと記者がとらえていることが伝わる。なお、パターン1～3の使用場面について、パターン1は本文、パターン2とパターン3は見出しとリードでそれぞれ用いられるという。

4. データ収集の方法

分析の材料とするデータは、2001年1月～04年7月に発行された、タイの大新聞「マティジョン」から収集した政治記事²⁾(見出しとリード文だけ)を中心にした³⁾(1ヶ月2部を任意に選んだ。合計86部)。同紙は、タイでは高級紙・一般紙として広く知られており、政治ニュースを主として扱っている。また、他の新聞5紙(タイラット:TR、タイポスト:TP、コム・チャット・ルック:K、プーチャカーン:P、デーリーニュース:D)の提供によるネットニュースも調べ、マティジョン紙と同じニュースの部分の表現を選択し、検討を加えた。

今回扱った各紙の記事数を以下の【表2】に示した。(コム・チャット・ルック、デーリーニュース、プーチャカーンの3紙はそれぞれのネットニュース提供期間が1ヶ月、もしくは3ヶ月で、あまりデータを入手できなかった。)記事の総数は183である。なお、1つの記事に複数のメタファー表現があらわれるものもある。

【表2】 新聞名と記事数

新聞名(略号)	記事数
マティジョン(M)	73
タイラット(TR)	61
タイポスト(TP)	40
コム・チャット・ルック(K)	3
デーリーニュース(D)	4
プーチャカーン(P)	2
計	183

分析対象とするメタファー表現は、日常生活の中で一般に広く使われている慣用的な表現ではなく、記者が新たに生み出したと思われるものである。そうしたメタファーには記者の主観が強く反映していると考えられる。

そこで、タイ語のことわざ・慣用的表現辞典 (Kanjanakpan, 1998) など
を調べ、得られたデータのうちで、それらの辞典に掲載されているもの、
つまりすでに一般に定着して通用しているものは対象外とした。

なお、以下では、カテゴリー別で具体的な例をあげながら、説明してい
く。用例の示し方について、《 》のなかには本来の意味を示し、必要に応じ
て注釈を (=) として加えた。矢印 (⇒) の後にはメタファーによる意
味転用を示している。タイ語の用例の下に各語に対応する日本語を記し、
最後に直訳を示した。用例の下の、「—」は対応する日本語がない語である。
そして、用例末の () の中は新聞紙名の略号と掲載年月日である。

5. 競技に見立てる表現

まずは、競技のメタファーが生み出すメタファー表現からみていこう。
政治記事では次のような表現が頻繁に使われる。

- ① ボクシングに関する表現：muai《ボクサー》phîilān《セコン
ド》lêek-màt《拳を交わす》sūan-màt《反撃の拳を打ち出す》
dêŋ-chûak《ロープに跳ねる》chók-lom《シャドウボクシング
する》chók-tâi-khêmkhàt《ベルトより下を打つ》fâathǎaŋ
《ファードハーングで蹴る》còyaan《ジョヤンで蹴る》pen-muai
《ムエタイができる》sǒɔn-muai《ムエタイを教える》muai-lóm
《八百長ボクシング》
- ② サッカーに関する表現：khîa-lûuk-ʔòɔk《ボールを場外に蹴
りだす》bailǎaŋ《イエローカード》baidεεŋ《レッドカード》
- ③ 陸上競技に関する表現：maaraathon《マラソン》sòŋ-máai
《バトンを渡す》
- ④ 競馬、もしくはカーレーシングに関する表現：khâw-pâai《看板
に入る》khóoŋ-sútthái《最後のカーブ》

- ⑤ スヌーカー(玉突きの種類)に関する表現: **chiŋ-dam**《黒を奪い合う》
- ⑥ ゲームや競技一般に関する表現: **chém**《チャンピオン》
kɔŋchia《応援団》 **duwŋ-keem**《ゲームを引き延ばす》
fɔm-tòk《フォームが落ちる》

集めたデータを調べた結果、政治記事が多数の競技のメタファーによって記述されていることがわかった。中でも、最も多いのはボクシング(タイ式ボクシングを含む)である。Beard (2000) は、政治とボクシングの両方の分野においては、「男性」「たくましさ」「敵対」「勝負」などいくつかの側面が共通しているため、政治をボクシングに見立てるメタファー表現は多数の国にみられ、一般的な現象だと述べている。ちなみに、タイでは、ボクシング一般を総称して、“**muai**”と呼ぶ。つまり、国際式ボクシングもタイ式ボクシング(ムエタイ)もいずれも、“**muai**”だ。しかしタイ人には、“**muai**”といえ、ムエタイの存在が大きい。ムエタイは長い歴史を経て定着しており、タイ人の日常生活とは切り離せないものだ。またボクシングに見立てるメタファー表現には、ムエタイの技名がしばしばあげられる。ボクシング一般の用語、例えば「セコンド」「拳で打ち合う」「反撃の拳を打ち出す」などにたとえても、ムエタイのイメージが強いと思われる。したがって、政治記事で用いられたボクシング用語(表現)のほとんどはムエタイのものといえるだろう。言い換えれば、タイでは政治がムエタイ(ボクシング)によって理解されているのである。ムエタイ(ボクシング)に見立てるメタファー表現には以下のような例がある。

- (1) **phīlīān**《セコンド(=ボクサーに助言をしたり、水を与えたりする介添人)》 ⇒ 選挙の立候補者の介添人

・sanò sanǎə tua pen phīlīān

- ・サノ 提案する 自分 なる セCOND
- ・サノは自分が (党員の) セCONDをやらせてもらいたい意向だ
(TR030416)

(2) **dên-chûak**《ロープに跳ねる (=ロープに逃げる)》 ⇒ 攻撃・質問などをそらす

- ・suwát dên chûak rûan ruam phák
- ・スワット 跳ねる ロープ 問題 合併 党
- ・スワットは (愛国党との) 党合併説をめぐり ロープに跳ねる
(TR040308)

(3) **chók-lom**《シャドウボクシングする》 ⇒ 相手がいないままで、一人で準備する

- ・naayók yəəi hâi prachaathípàt chók lom
rɔɔ pai kɔn
- ・首相 あざける — 民主党 シャドウボクシングする
待つ — さきに
- ・首相は民主党に (本番を) 待って、さきに シャドウボクシングする
ようあざける (M030703)

(4) **còyaan**《ジョヤン (=ムエタイの技名で、足蹴り)》 ⇒ 政敵の地盤へ進入する

- ・pɔɔŋphon khùu còyaan banhāan /
khɔɔ biət kâwʔîi muansuphan
- ・ポンポン 警告する ジョヤンで蹴る バンハーン /
期待する 押し込む 椅子 スパンブリ県

- ・ ポーンポンはバンハーンにジョヤンで蹴ると警告
スパンブリ県（選挙区）で椅子の奪い取りを期待する（TP010527）

6. 戦争に見立てる表現

戦争に見立てる表現は以下のようなものである。

- ① 軍人に関する表現： mĕetháp 《総大将》 khŭnphon 《将校》
- ② 攻撃や防御に関する表現： wɔɔruum 《英語の “War Room” = 戦争室》 thalòm 《攻撃する》
- ③ 砦や陣営に関する表現： tâŋ-pôm 《要塞を築く》 càt-tháp 《陣容を整える》 triam-tháp 《布陣する》
- ④ 戦闘に関する表現： sùk 《戦》 sǒŋkhraam 《戦争》 sùknai 《内戦》 yàa-sùk 《休戦する》
- ⑤ 兵器に関する表現： máasùk 《戦馬》 thŷŋ-bɔm 《爆弾を落とす》 rŏt-dàap 《刀を免れる》 loŋ-dàap 《刀を下す》 kèp-dàap 《刀を収める》 krasŭn 《銃弾》

「政治は闘争である」という観点に基づいて、政治が「戦争」に見立てられることは自然である。これはタイだけでなく、日本を含む他の多くの国でも、民衆の一般共通の観念だといえるだろう。今回のデータの中では、戦争に見立てるメタファー表現が、特に選挙や国会での議論、内政問題を扱った記事に多くみられる。以下はそれらの例の一部である。

- (5) sùknai 《内戦》 ⇒ 組織や党の内部のもめごと
- ・ chuan thòk kĕennam prachaathípàt
khlia sùknai
 - ・ チュアン 協議する 幹部 民主党
解消 内戦

・チュアンは内戦の解消について民主党幹部らと協議 (M040202)

(6) **khŭnphon**《将校》 ⇒ 立候補者、大物党员

・prachaathípàt radom **khŭnphon** lui
lŭaktâŋ sŏm

・ 民主党 動員する 将校 挑む
選挙 補欠

・民主党は補欠選挙に挑むための将校を動員している (TR040119)

(7) **máasùk**《戦馬》 ⇒ 担当者、当局者

・khəwəwəwəwə plian **máasùk** 3 caŋwàt tâi

・ 閣議 入れ替える 戦馬 3県 南

・閣議は南部3県で(治安問題解決を担当する)戦馬を入れ替える
(P040824)

(8) **tâŋ-pŏm**《要塞を築く》 ⇒ 相手と戦うために、仲間たちと
一緒に準備する

・wanŋámyen **tâŋ pŏm** chon plòt

・ワンナムエン 築く 要塞 ぶつかる プロード

・ワンナムエン派はプロードとぶつかるための要塞を築く

(TP030226)

7. 考察とまとめ

以上、タイの政治記事で用いられたメタファー表現について具体例をあげながらみてきた。政治に関するさまざまな事柄がどのように競技と戦争にたとえられて表現されているかわかる。同様のメタファーの使用は、夕

イ語だけではなく、他の言語文化にも広く認められ、そこにはそれぞれの文化や国民性が反映している。

集めた資料の中で、もっとも多くみられたのは、競技に見立てるメタファー表現であった。記者が政治を競技になぞらえる時、政治家の行う議論や選挙はスポーツの試合に、政党はチーム、政治家は選手に見立てられるのである。政治家（選手）同士はさまざまなテクニックを駆使して勝ち負けを競り合う。Lakoff (1991) は、戦争のメタファーとして「競技」が用いられる時、「戦略的思考、チームワーク、用意周到さ、世間という競技場の観客、勝利の栄光、さらには敗者の屈辱」がとりわけ強調されるといふ。これは競技が政治のメタファーとして用いられる場合についても同様であるといえよう。

また、スポーツに基づくメタファーはそれぞれの国に特徴的なものもみられ、その国の価値観と生活をそれぞれ反映している。例えば、イタリアではサッカーが大人気であるため、政治家の遊説においてもサッカーに見立てるメタファーが多用される。アメリカでは野球、イギリスはサッカーとそれぞれに異なっている (Semino and Masci 1996, Beard 2000)。一方、タイの場合は、多数のスポーツで用いられる用語が政治記事を成り立たせているが、先に述べたとおり、その中では、ムエタイ（ボクシング）に関係したものが際立っている。松井（1998）は、日本語では相撲と野球に基づくメタファー表現が多く、それは日本文化において重要な文化項目であるからだとして述べるが、タイにおいて日本の相撲や野球に相当するのはムエタイだといえる。政治家はムエタイ選手とみなされ、政治家がお互いに攻撃することが、ムエタイ選手がリングで「拳で打ち合う」「反撃の拳を打ち出す」「ファードハングで蹴る」「ジョヤンで蹴る」といった行動にたとえられている。また、政治的手腕のある政治家に言及する場合には、「ムエタイができる（＝ムエタイの技が得意）」や「(相手に) ムエタイを教える」

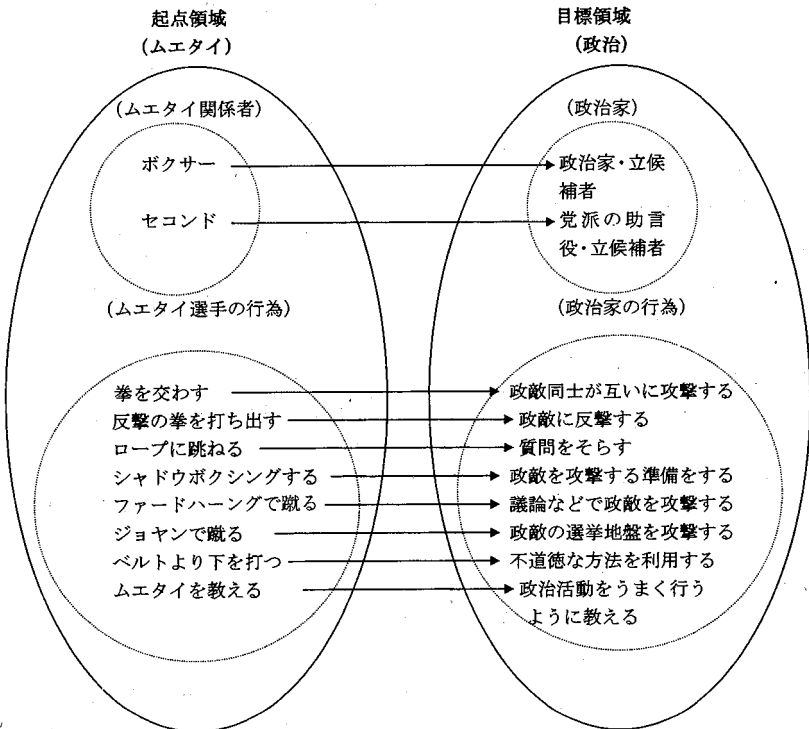
という表現が使われる。このようなムエタイ用語を使うことによって、政治の概念が具体的にイメージされるのである。なお、ムエタイは、スポーツの分野で非常に人気が高いだけでなく、「男らしさ」の格闘技として知られている。これも「男」の世界とされている政治のメタファーとして用いられる理由の1つであろう。

競技とともに戦争のメタファーもよく用いられる。政治が戦争を通して理解されることは一般的だと指摘する先行研究は多い (Lakoff 1991、Semino and Masci 1996、山田 1996、Beard 2000)。戦争と競技とは「戦い」「敵味方」「勝ち負け」「たくましさ」「作戦計画」「技術的実行」などの共通点が多いため、一方のメタファーが使われるのと同じような文脈で他方のメタファーが使われるという相関関係を持つことが明らかになっている。政治記事でも、競技としてのメタファーが使用されるのと同じような文脈で戦争としてのメタファーが使われる。すなわち、選挙活動をはじめ、国会での議論、政治家同士 (または党と党) の争いといった政治的摩擦のケースに用いられることが多い。ただし、競技が一定のルールの下で勝負を行うというイメージを持っているのに対して、戦争はルールにはお構いなしに武器を使って敵を殺傷・破壊するというような過激なイメージを持っている。このため、競技と戦争のいずれに基づくメタファーを使うかによって、与える印象が異なってくる。

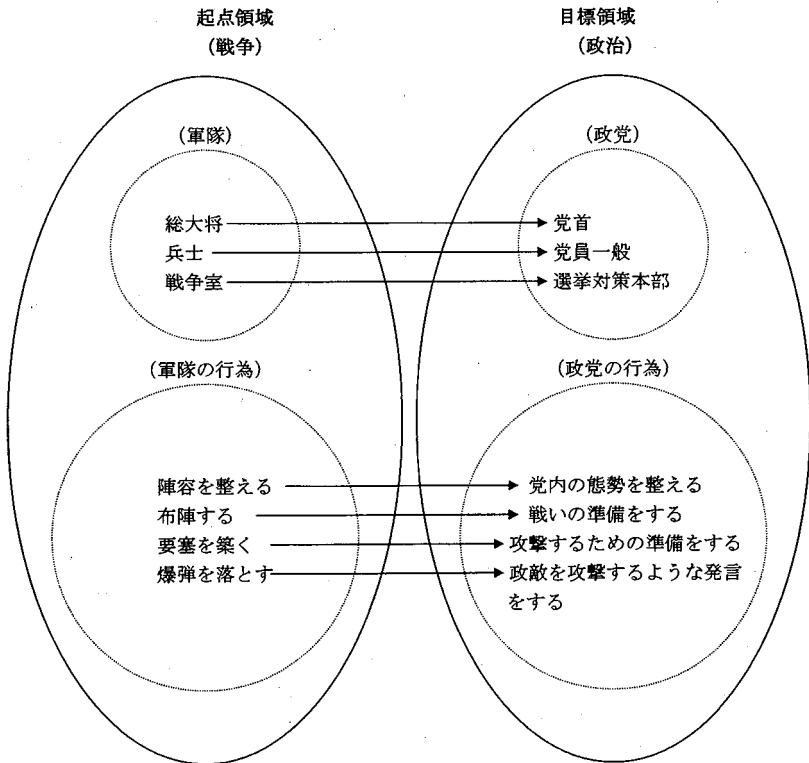
集めた資料の中で、政治が戦争のメタファーで概念規定されているところに注目してみると、以下のようなことがいえる。政党は軍隊とみなされ、総大将 (党首) や将校 (立候補者や党員) で構成される。戦闘 (選挙や議論) に向けて陣営を整えたり、布陣したりする。そして、爆弾 (発言) や銃弾 (金銭) などの武器を使って、政敵を攻撃する。戦場は選挙区や国会である。すなわち、選挙や国会での議論の中で政党が行うことの多くは、戦争という概念によって構造を与えられているのである。

今回の政治記事のデータからは、タイの政治に関わる概念が「政治はムエタイである」「政治は戦争である」という2つの主要なメタファーによって構造化されていることがわかる。Lakoff (1987) は、メタファーは、たとえるものが存在する領域、すなわち起点領域 (source domain) から、たとえられるものが存在する領域、すなわち目標領域 (target domain) への領域間の写像である、という認知過程を提唱している。言い換えれば、メタファー表現はある (具体的な) 概念と別の (抽象的な) 概念との間の写像によって生まれるものである、ということである。この考えに基づいて、タイの政治記事におけるメタファー表現の主なものについて、その概念構造を図示すると、以下の【図1】～【図2】のようになる。

【図1】 <政治はムエタイである>におけるメタファー写像



【図2】 <政治は戦争である>におけるメタファー写像



8. おわりに

政治に関わるもう一つの重要な概念として、本稿では取り上げなかったが、「正義・不正」の問題がある。これに関する表現は、日本語で「正義」の場合は、「明るい社会」「きれいな政治」「まっすぐな行動」「高邁な精神」「崇高な理想」「透明な政治」など、「不正」の場合は「政治の墮落」「腐敗」「歪んだ政治」「いびつな政治」などがある。一方、タイの政治記事では同じような表現も行われるが、それ以外に *maafia* 《マフィア》 *coon* 《賊》 *khāi-tua* 《体を売る》 *plôn* 《強盗する》 *khòmkhūwn* 《憲

法を)レイプする》khwai(水牛=低俗で愚かな人) khó-kalaa(ヤシの殻を叩く=お金などをインセンティブにして、よその党の人を引き抜く、「犬にえさをやる時に)ヤシの殻を叩く」ということから)などのような表現も現れる。このような大変に過激で軽蔑的なことばが用いられるのが、タイの新聞記事の特徴の1つだといえる。ただし、このような過激なことばは、同じ内容を扱った記事でも、ある新聞は使うが、別の新聞は使わない、ということがある。もちろん、新聞の種類が大衆紙(Popular Paper=大衆向けの内容を提供)であるか、高級紙(Quality Paper=より高度な内容を提供)であるかによって、言葉づかいが異なる可能性もある。しかし、それだけではなく、その背後に新聞紙の「偏見」が潜んでいるのではないかとも考えられるのである。

注

- 1) 調査では、メタファー表現を用いた記事183種類から異なり117例のメタファー表現が得られた。これらのメタファー表現を「競技」「戦争」「自然・生物」「ビジネス」「犯罪・ギャンブル」「演劇」「病気・医療」「家族・結婚」「フィクションの存在」「教育」「建物・用具」「食べ物」という12のカテゴリーに分類した。この中で最も表現個数が多いのは「競技」(24)、次いで、「戦争」「自然・生物」(各17)、「ビジネス」(15)、「犯罪・ギャンブル」(12)となっている。
- 2) ここで扱った政治記事は「ニュース記事」のことで、政治面の解説記事を除く。
- 3) 見出しおよびリードを中心に取り上げた理由は、この2つの部分で用いられることばは口語的であり、感情的な言い回しが多用される傾向にあることから、メタファー表現が出現しやすいとみなしたからである。

参考文献

- 鄭基成 (2001) 「お天気、飛行機、病人——経済はどのような隠喩で概念化されるか? ——」『茨城大学人文学部紀要』10、pp. 1-15
- 鍋島弘治郎 (2002) 「特集メタファー：政治を動かすメタファー」『言語』31-8、pp. 77

- 野内良三 (2000) 『レトリックと認識』 日本放送出版協会
- 松井真人 (1998) 「スポーツとレトリック：日本野球におけるメタファー」
『藝文研究』 74, pp. 107-119
- 山田伸明 (1996) 「戦争とメタファー」『中部大学国際関係学部紀要』 16, pp. 143-157
- Beard, B. (2000) *The Language of Politics*. London : Routledge.
- Jittaviriyapong, J. (1997) "Idiomatic Expressions in Political News in Daily Newspaper during 1991-1995", *MA Thesis*. Bangkok : Chulalongkorn University.
- Khanittanan, W. (1997) "The Language of News in Comparison between Thai Television and Newspapers", *Language and Linguistics*. Vol. 16, No. 1, pp. 29-36
- Khansuwan, S. (1996) *Journalism In Action*. Bangkok : Prakaipruerk.
- Kullavanijaya, P. (2004) "Kracòk Raiwan Kàp Khàw Kaanmwan (ミラーと政治記事)", *Rúu Than Phaasã Rúu Than Kaanmwan*. Bangkok : Khor Khit Duay Khon, pp. 109-147
- Lakoff, G. (1987) *Women, Fire, and Dangerous Things: What categories reveal about the mind*. Chicago : The University of Chicago Press. (池上嘉彦・河上誓作他訳 (1993) 『認知意味論』 東京：紀伊国屋書店)
- (1991) "Metaphor and War"
<http://philosophy.uoregon.edu/metaphor/lakoff-l.htm>.
(高頭直樹訳 (1991) 「隠喩と戦争」『現代思想』 19-5, pp. i-xvi)
- Lakoff, G. and M. Johnson (1980) *Metaphors We Live By*. Chicago : The University of Chicago Press. (渡辺昇一他訳 (1986) 『レトリックと人生』 大修館書店)
- Nantachantoon, S. (2000) *Kaankian Phûa Kaansûwusãan* (コミュニケーションのために書くこと). Bangkok : Kasetsart University.
- Semino, E. and M. Masci (1996) "Politics is Football : Metaphor in The Discourse of Silvio Berlusconi in Italy", *Discourse and Society*. Vol. 7, No. 2, pp. 243-269.

引用資料

- マティション紙 (2001年1月～2004年7月)
www.thairath.co.th (タイラット紙)
www.dailynews.co.th (デーリーニュース紙)

www.thaipost.net (タイポスト紙)

www.komchadluek.co.th (コム・チャット・ルック紙)

www.manager.co.th (プーチャカーン紙)

辞典類

富田竹次郎 (1990) 『タイ日辞典 (改訂版)』 養徳社

富田竹次郎 (2003) 『日タイ・タイ日辞典』 Amarin Printing and Publishing
(バンコク)

コーサー・アリヤ (1991) 『タイ日辞典』 Thammasat University Press (バンコク)

Bandhumedha, N. (2001) *Khaj Kham* (タイ語分類語彙表). Bangkok :
Amarin Printing and Publishing.

Kanjanakpan, S. (1998) *Sāmnuan Thai* (タイ語慣用句). Bangkok : D. K.
Book House.

The Royal Institute (2003) *The Royal Thai Institute Dictionary*. Bangkok :
Nanmeebooks Publications.

(大学院後期課程学生)

SUMMARY

Politics and Metaphor

Meena AMATANON

This paper focuses on the use of two domains of metaphorical expressions; namely "Sport Metaphor" and "War Metaphor", recurring frequently in Thai Political news articles in recent years. Based on the theory of "conceptual metaphor", the study analyzed the kinds of situations that are depicted by the two metaphorical expressions and how they reflect the Thai people's perception of politics. The paper shows that, in being similar with the concept of fighting, competing or opposing between two sides, or among groups, both sport and war metaphorical expressions are likely to be adopted in similar kind of news, particularly those concerning elections, conflict of interests, and argument in parliament, etc.

Even though it is well known that Sport Metaphor is commonly used in political news in many countries, the study shows that in Thailand, a set of Muay Thai technical terms is prominent, and plays a particularly significant role. Therefore, this could be the characteristic for metaphorical use in Thai politics. Also, this possibly reaffirms the idea that metaphorical use in each society is embodied differently by the basic difference in cultures, beliefs and sense of values.

キーワード：概念メタファー，見立て，タイの新聞，政治記事